令和５年度　事業所別事業報告

事業所　【　法人本部　】

Ⅰ　令和５年度の状況

令和５年度は第五期３ヵ年計画の最終年。新型コロナウイルス感染症が５類に変更されたものの、新型コロナウイルス感染予防と利用者・職員の安全を最優先にした一年となった。利用者の利用基準、職員の出勤基準については、都度見直しを実施。三喜苑通所介護事業所で一度、集団感染が発生。入所施設でも感染者が出たものの、感染拡大を防ぐことができた。しかし、感染者が発生した際の対策（感染者が発生した場合、通所事業は休業を行い自宅訪問し抗原検査を実施。入所施設においては入所の制限を行なった。）において、少なからず運営に影響があった。令和６年度については、感染症対策においての施設ルールや施設の在り方・営業方法など見直す時期がきている。利用者、職員の安全面を考慮し、安心して生活（利用）できるよう努めていきたい。

経営面については、どの事業においても収入の減少と支出の増加、それに加えて利用者の獲得が課題となっている。各事業所の収益を増やすこと、そして無駄を省き、支出の削減・抑制することが重要となる。引き続き、事業の継続と安定的経営の強化に努めたい。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	コンプライアンス（法令遵守）の強化	・　令和5年度 鳥取県社会福祉法人指導監査(指導・指摘を受けて改善した) ・　令和5年度 児童福祉行政指導監査：賀茂保育園（指摘事項なし） ・　令和5年度 老人福祉施設指導監査：ケアハウス、特別養護老人ホーム（指摘事項なし） ・　介護保険法に基づく実地指導及び業務管理体制確認検査：介護老人福祉施設、短期入所生活介護事業所（指摘事項なし） ・　三朝町運営指導：グループホーム（指摘事項なし） ・　鳥取県社会福祉保険サービス評価事業：グループホーム（指摘事項なし） ・　法令遵守及び虐待防止に努めた。 ・　全体会（研修）「交通安全」「職業倫理法令遵守」「虐待防止」実施した。
	②	非常時における安全確保・対策	・　防災訓練回数 三朝温泉三喜苑 避難訓練　２回実施した。（日中想定１回・夜間想定１回） 夜間通報訓練　２回実施した。（そのうち１回は抜き打ちで実施） グループホーム仁の里 避難訓練　２回実施した。（日中想定１回・夜間想定１回） 三喜苑西郷（通所介護） 避難訓練　１回実施した。（日中想定１回） ・　防災研修を実施した。８３名参加した。 ・　職員の労働災害：業務災害3件（打撲1件・骨折1件・職場内でのコロナ感染1件） （令和3年度：3件／令和4年度：32件（内25件が職場内でのコロナ感染）
	③	苦情の解決・リスクの管理（マネジメント：管理・分析・改善・成果を引き出す）	・　苦情相談受付件数　３件 毎月苦情解決委員会を開催し、苦情、相談、質問について内容を確認し、対応策や解決結果について確認した。 ・　苦情解決第三者委員会を開催し、発生した苦情解決状況等を説明及び意見聴取した。（年間２回／４月、9月実施） ・　職員状況　採用15名・退職11名 ・　労働者不足の対策 公共職業安定所（ハローワーク）の活用、民間人材紹介会社へ情報収集・発信した。 （採用経路：新卒者（２名）、ハローワーク（４名）や職員の知り合いの紹介などで計１５名採用） ・　育児休業中の職員への情報提供や情報収集にも努め、スムーズな職場復帰へ確認・調整した。 ・　新型コロナウイルス感染症対策を整備し感染予防に努めた。 （マニュアルの見直し、面会室（非接触）を活用し家族との面会を実施した。 利用者・職員の新型コロナウイルスワクチン集団接種（2回）を実施した。 抗原検査キットを購入し、職員、利用者の同居家族の学校等から新型コロナウイルス感染者が発生した時などに検査を実施した。（感染状況確認）
能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	・　各種研修会を毎月実施 全体会（年間11回開催）：平均　８７名参加あり。（令和4年度：平均 73名参加） 職員研修（年間4回）：平均　　２１名参加あり。（令和4年度：平均 34名参加） ＊全体会…予備日を設けて研修に参加しやすい体制に変更した。 施設外研修　延べ１１９名参加（令和4年度：延べ 89名） 新人研修（年間２回）：対象者　３名受講

能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	・　令和5年度実績（取得状況） 介護施設における安全対策担当者養成研修　１名 認知症介護実践者研修　２名、　認知症介護実践リーダー研修　１名 介護支援専門員更新研修　１名、喀痰吸引等研修指導看護師等研修　１名 介護福祉士　２名、　防火管理者　２名 ・　施設内研修（新人研修・職員研修・全体会）については、アンケートを実施し研修の評価・振り返りを行った。 ・　職員研修・全体会：新型コロナウイルス感染症対策をしながら開催した。 （会場を分散し、オンライン研修を実施した。）
	②	給与・働き方に関する規程の見直し（同一労働同一賃金への対処）	・　「働き方改革（賃金・待遇等）」を踏まえ役職員給与規程を改正を行う。 令和６年２月から適用（支給）した。 （介護：介護職員処遇改善支援補助金と鳥取県軽費老人ホームに係る処遇改善支援補助金を活用） ・　年次有給休暇の確実な取得に向けた仕組みについて、新規採用者研修時の説明や衛生委員会、リーダー会への情報提供、法人本部近況報告等により周知した。 ・　鳥取県最低賃金改定に伴い、役職員給与規程を改正した。 （令和5年度10月分給与から適用／鳥取県最低賃金854円から900円に引き上げられた）
	③	業務の見直しと効率化（ICT活用／業務手順の見直しと統一）	・　ＷＥＢ会議ツール「ＺＯＯＭ」を活用して、委員会、研修、他事業所とのカンファレンス（会議）等を実施した。 ・　見守り（ベッド）センサー、インカム、グループウェアを導入。引き続き、業務改善に繋げていく。 ※　インカム：インターコミュニケーションシステム　無線機器の一種 ※　グループウェア：スケジュールや業務管理などのソフトウェア
地域	①	ヒト：職員の派遣（研修講師・介護教室など）／ボランティアの活用・見直し	・　ボランティア受入　６名（奉仕作業）　（令和4年度：0名） 新型コロナウイルス感染症対策により受入を中止した。 ・　講師派遣（１３回派遣）…　三朝町主催 介護予防教室３回 老人クラブ連合会主催介護教室４回 （令和4年度：5回派遣）　三朝町社会福祉協議会主催 健康教室６回
	②	モノ：非常時における避難（スペース有効利用）／情報開示・発信（ＨＰ・広報誌）	・　情報公開（決算状況）：ホームページ（ＨＰ）に情報を掲載（公表）した。 （法人事務所（玄関）でも情報公開している。） ・　機関紙「太陽」年４回発行した。（111号～114号） ・　福生会ニュース（ホームページ上の名称） 月平均１０７件情報発信した。（令和4年度：平均75件）
	③	カネ：社会福祉充実残額の算定と計画	・　令和４年度における社会福祉充実残額は△403,300,000円のため、社会福祉充実計画の策定は不要ではあるが、公益的取組み（地域貢献）は実施した。 公益的取組み：介護予防教室への講師派遣 等 ・　エコキャップの回収（地域貢献委員会） ・　利用者負担軽減制度の実施：対象者　２名 ・　新型コロナウイルス感染症対策により中止した事業（行事） 福生会祭り、論語三代、地域交流会 ＊論語三代については規模を縮小し「論語塾」として開催した。 ・　認知症カフェ（わらわぁ会）…　３回　参加者延べ９名
業務	①	支出管理の強化（増税対応含む）	・　月毎の収入や予算執行状況を所属長等に報告し、収支状況等の情報共有を図った。
	②	設備投資と計画（エコ・大型機器の入れ替え・計画）	・　補助金事業722,000円（令和5年度鳥取県介護ロボット導入支援事業補助金） 見守りセンサー、ほのぼのインカムシステム ・　大型機器の入替え等 空調設備取付（設備工事）、小荷物専用昇降機修繕、電気温蔵庫
	③	法人本部の機能強化及び「組織」の見直し	・　通所介護事業所（三朝）利用者定員を35名に縮小した。 ・　認知症通所介護事業所の廃止（R6.1.31） ・　賀茂保育園：令和6年度に向けて園児定員を60名に縮小した（承認され手続き済） ・　現況報告書（定期報告）の提出。 ・　ＢＣＰ（業務継続計画）を策定した。

令和5年度　事業所別事業報告

事業所　【 介護老人福祉施設 】

Ⅰ　令和5年度の状況

新型コロナも5類に分類され、入所者や家族の満足度を高める為に面会方法や発熱者対応、勤務体制などの見直しに追われた年でもあった。この一年、職員や家族、入所者の感染は見られたが、感染拡大する事無く対応できた。来年度は引き続き他施設の状況や対策の徹底を図りながら、交流会やボランティアの受け入れ再開などに取り組んでいく。また、入院者数が6.4人／日だった事もあり、かなり収入にも影響が見られた。異常の早期発見と早期対応をする事で、入院者減に繋げていきたい。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	専門的な介護サービスの提供	・認知症ケア会議の内容が報告会となっている事もある。個別事例をあげ具体的な検討を行い、ケアの質向上に努めるよう伝達を行った。 （参加者の勤務の都合等により毎月開催することができなかった。9回開催） ・学習療法を継続して行っている（8.3回/月）。 ・看取りの移行基準の見直しについて話を進めている。 ・歯科勉強会を9回実施した。口腔ケアについての指導の他、口腔衛生を保つ事で、疾患予防にも繋がる事についても学んだ。 ・口腔ケア評価について、歯科医師と計画を立てていく方向で話を進めている。（令和6年度より実施予定） ・多職種で食事形態や食事内容についてなど、都度検討する事ができた。また、栄養剤の変更についても家族と相談ができた。
	②	楽しみながら、安心、安全、満足の得られる生活の提供	・時季に合わせた内容で、毎月調理活動を行った。 ・虐待や身体拘束などについて職員アンケートを実施し、特養ミーティングで関わりについて検討する事ができた。今後はいかに実践していけるか、定期的に振り返る場をもつ。 ・家族アンケートで、電話や窓口対応などでの言葉遣いについて指摘があった。令和6年度は接遇面についての研修も企画する。 ・ポジショニングの徹底や、異常に早く気付く事に心がけたが、褥瘡を繰り返される方も目立った。 ・ふるさと訪問やドライブなど、実施回数を増やすことができた。 ・職員やその家族のコロナ感染はあったが、施設内に持ち込まれる事はなかった。一方で職員が休みの間の勤務調整に苦慮した。5類感染症に移行され、対応について見直しを行った。
	③	病院との連携をはかる	・退院時のカンファレンス参加や入院中の様子伺いを積極的に行った。 ・年度末に意見交換会を実施した。（令和6年度事業戦略について）
能力開発	①	特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める	・クラスターなども無く、特養ミーティングを毎月実施できた。しかし、参加者は少なかった。予備日の開催を設け、職員の参加を促している。今後は当日参加者を増やす事が課題。
	②	認知症利用者への対応力向上	・認知症介護実践者研修1名、認知症介護実践リーダー研修1名修了。研修修了者による伝達研修を実施した。
地域	①	地域の保育園・小中学校・ボランティアとの交流	・交流会などは未実施であった。（感染症対策のため） ・ボランティアの受入:6名（6月の奉仕作業）
	②	福生会ニュースを掲載する	・福生会ニュース掲載は年10回であった。（目標：月2回以上掲載）
業務	①	職員の健康維持	・腰に負担のかからない介助法については、相談に応じて指導した。 ・福祉用具を活用した。（介護移乗リフト、スライド式移乗ボード） ・手洗いチェックと個人防護具の着脱チェックは不十分だった。
	②	安定的経営を目指す	・入院者数は1日平均6.4人であった。（目標：4人／日以内） ・入所までの日数が2～3週間程度要する事もあった。（家族の意向確認や本人の状態などに変化が見られた為）

＜令和5年度入所者状況＞

平均要介護度：4.0

退所者数：29名

（看取り15名、病院退所4名、他10名）

待機者数：48名

※参考：令和4年度入所者状況

平均要介護度：4.0

退所者数：26名

（看取り14名、病院退所12名）

待機者数：90名

令和5年度　事業所別事業報告

事業所　【 短期入所生活介護事業所 】

Ⅰ　令和5年度の状況

コロナも5類に分類された事により、ショートステイの受け入れ基準の見直しに取り組んだ。家族の都合やレスパイト（介護疲れにならないよう家族のリフレッシュ）目的での利用も多く、施設として可能な限り受け入れをしていく上で、体調の聞き取りや周囲の感染者情報、症状があった場合の対応を家族やケアマネジャーと共有し、できる限りの受け入れを行ってきた。また、新規利用申し込み者の3分の2は継続に繋がっており、今後も医療的な対応が必要な方や認知症の対応が必要な方においても、積極的に受け入れができるような体制整備も行って行きたい。

令和5年度の利用実績は14.5人と目標値を下回った。来年度は特養入所待ちの利用者においても、引き続きケアマネジャーと連携を図りながら一定数の確保に努め、目標値である16人／日を達成できるように取り組んで行く。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	認知症利用者への適切なサービス提供	・認知症日常生活自立度Ⅲ以上の受入れは41.6%だった。 ・どこの居室を利用されても、同じ対応ができるよう情報の共有を行った。 ・認知症ケア会議は、参加者の勤務都合等により9回の開催であった。（計画：毎月開催） ・学習療法は該当者なし。希望があれば対応していく。
	②	利用者のニーズの把握と細かい対応の実施	・利用者の状況を把握し、在宅生活に近い環境を提供する事で、機能維持に努めた。 ・担当者会議への出席や聞き取りなどで利用者の状況が変わった場合はその都度援助内容確認書を修正し対応した。 ・利用中に変化があった場合、家族やケアマネジャーへ細めに連絡を行った。その後の経過についても同様に行った。
能力開発	①	認知症利用者への対応力向上	・認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修へ各１名ずつ参加し、研修修了した。 ・特養ミーティングで研修修了者による伝達研修を実施した。
地域	①	居宅ケアマネジャーとの連携	・サービス担当者会議へ出席し情報交換を行い、利用者支援に活かした（ケアマネジャーからの依頼時は必ず出席した）。また、利用中に変化があった場合は連絡を取り合った。
業務	①	利用者確保	・利用実績は、14.5人／日（目標：16人／日） ・新規利用者は48人。その後継続利用につながった利用者36人（2回以上利用。その後、入院、死亡退所含む）
	②	夜勤職員配置加算の算定要件確保	・認定特定行為業務従事者資格（介護士の吸引、胃ろうの対応資格）を有する夜勤者を毎日1名配置した。

注　認知症ケア会議 ＝ 留意事項の伝達又は技術的指導に関する会議

	令和4年度	令和5年度	差
利用延べ人数	5,495	5,299	△ 196
平均要介護度	3.1	2.9	△0.2
１日平均人数（人）	15.1	14.5	△0.6

令和５年度　事業所別事業報告

事業所　【　通所介護事業所　】

Ⅰ　令和５年度の状況

・利用者減少の流れが続く中、令和5年度は定員を減らし35名（昨年度40名）でスタートした。
・新規利用者獲得の為の営業活動、菜園活動や廊下の壁面を利用したレクリエーション等、利用者の楽しみに繋がる活動にも力を入れ、昨年度から始めたオンラインレクは定着し楽しみにされている方も増えてきた。
・しかし令和5年度も利用者減少の流れが続き、新規利用者よりも終了者数が上回る結果となった。
・令和5年度の終了者のうち1/3以上が2年以内で利用終了となっている。
・11月に発生した新型コロナウイルス感染症クラスターの休業や、大雪による縮小営業等も利用者減の要因となった。
・新規利用者の獲得と継続利用のための取り組み、現在利用されている方の回数を増やす働きかけ、振替利用の促進、これらの課題が明確になった1年だった。令和6年度はこれらの課題に対応し利用者の増加を図っていく。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	・運動機能実施者の介護度維持・向上の評価基準値53％で目標（70%以上）達成できなかった。 ・計画書作成、機能訓練実施、評価を適宜実施した。機能訓練を月平均349名実施した。（17.2名/日）
	②	楽しみ、やりがいのある活動の提供	・利用者の趣味に合わせた活動の提供や、廊下の壁面を利用した脳トレ、レクリエーション等に取り組んだ。オンラインレクも定着している。 ・コロナで中止となる行事もあったが、季節に合わせて外出行事を実施した。敬老会はお楽しみ会に変更し、抽選会などの催しを企画した。 ・マッサージチェアーを自由に使用できるよう設置した。入浴ができない時やシャワー浴の方には足湯を実施した。
	③	家族・各事業所との連携強化	・11月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し休業した。家族に連絡を取りながら体調を把握し、事業所との情報共有に務めた。 ・休業期間はサービス担当者会議への参加は控えたが、それ以外は出席し、家族・各事業所へ状況報告を行った。毎月のモニタリング提出が遅れてしまう事があった。 ・家族アンケートを1月に実施した。今後の取り組みにいかしていく。（63名に配布し、52名から回答あり：回収率82％）
能力開発	①	職員の資質向上	・ミーティングで勉強会を開催。（5月：感染対策について　7月：通所介護加算について　10月：接遇について　12月：腰痛と移乗介助について　1月：電話対応について　3月：認知症について）日々のケアに活かせる実践的な研修も実施した。 ・施設外研修はレクリエーション研修4名、認知症介護実践者研修1名、フォローアップ研修1名、他ズーム等の研修に3名参加した。施設内研修年4回、延べ25名参加。 ・毎月の評価と振り返りをし、目標も見直しながら接遇力向上に努めた。
	②	感染症対策の継続	・11月に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、感染対策を見直し、再度対策の徹底を行った。ゴーグルやエプロン、手袋等の着用を継続し、送迎時の換気等も含め感染予防に努めた。利用者が帰る前の手指消毒も継続している。
地域	①	地域貢献と地域への発信	・他団体からの依頼により、出前レク（介護予防教室）に講師を派遣した。（年間6回）　地域住民延べ49名の参加があった。 ・地域行事にはコロナ感染等もあり参加出来なかった。 ・福生会ニュースに行事等の様子を掲載し情報発信した（18件/年）
業務	①	利用者の確保	・利用者数実績：介護保険利用者目標29名/日に対し、22.0名/日。（要介護17.4名/日　要支援・事業対象者4.6名/日） 新規利用者19名/年。利用終了者28名/年。 ・デイ通信年3回発行、毎月のカレンダーを作成し各事業所へ配布した。チラシやホームページに空き情報を掲載した。
	②	業務改善	・介護記録システムを活用し、パソコンやタブレットで入力し協力し合いながら記録時間の短縮に努めた。 ・各業務の問題点等について都度確認と相談を行い見直し、改善を行った。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・送迎中の車両事故3件、労働災害1件あり。（送迎中の事故1件） ・4/10公用車が廃車となる車両事故が発生、事故原因を踏まえ職員の体調管理を対策として挙げた。車両事故については運転指導を行った。 ・全職員が年次有給休暇を年5日以上取得した。

注1　運動機能実施者＝要支援事業対象者で「運動器機能向上サービス」をうけている利用者

注2　評価基準値70％＝「事業所評価加算」が算定できる基準

令和5年度　事業所別事業報告

事業所　【　ケアハウス　】

Ⅰ　令和5年度の状況

感染拡大防止のための「感染対策期間」は計画していた行事や取り組みが中止され延期になる事も多かった。感染症対策での隔離解除後には体力低下を実感される方も多く隔離期間中に居室で転倒されている事もあり、ご利用者への身体的影響もあった。ご利用者の多くが高齢になられ、体調、体力や意欲の変化が見られる中で体調管理や環境整備など対応の変更を都度検討する必要があった。外出に消極的になられる方もあり、外出行事を個別の対応にする事で要望を細かく把握する事が出来た。入居希望者は高齢な方が多く、医療的支援が必要な方からの相談も増えた。対応が可能な場合は受け入れてきたが、体調変化や転倒で入院され退居となられる方があった。退居が決まってから営業活動をする事が多く、紹介を頂くまでに時間がかかり満床維持が未達成の月が4回あった。今年度は5名の入退居があった。（基準：初日在籍）

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	サービスの質の向上（全体）	・運営懇談会、ミニ講座、避難練習など予定していた事が感染症対策で中止や延期となり、書面を配布し情報を提供する事が多かった。 ・年2回全体の避難訓練は感染症対策のため予定変更があったが実施できた。 ・午前、午後の体操やレクリエーションも中止する事が多かった。季節の行事は感染症対策を行いながら前年同様に規模を縮小し実施できた。
	②	サービスの質の向上（個人）	・個別の外出支援を買い物送迎に取り入れ、遠慮なく外出が出来たと喜ばれた。体力や持病等の理由で外出を希望されない方は、柔軟に外出先を提案する事で参加者が増えた。 ・ケア新聞「やまぶき」は年3回発行。感染症対策期間は活動が制限され記事が無く発行出来ない事があった。ご家族への手紙は発送が遅れ2ヶ月分を送付する事もあった。 ・「アドバンス・ケア・プランニング」の説明を2名行った。未来の事は予想が難しく、人生会議のために他人に集まってもらう事への遠慮もある。内容の簡素化が必要。
能力開発	①	人材育成と資質向上	・認知症に関する動画学習を２回実施した。感染症対策期間が発生し、事故防止と健康管理は未実施。健康管理や事故防止の視点で都度検討を行い内容を職員間で周知した。勉強会の準備、実施方法を再検討する必要がある。 ・レクリエーション研修３回参加。県社協研修「苦情解決」１名参加。 ・全体会は伝達講習も含め毎月全員参加。職員研修「認知症」1名参加。
	②	接遇力向上	・サービス向上委員会の接遇チェックリストを使用し、同じ目標に集中し取り組んだ。評価により自分を振り返る機会となり、目標を意識し取り組む事が出来た。 ・利用者、家族アンケートを12月実施し3月に結果を報告した。2月感染症対策期間があり報告が遅れた。「健康面への配慮ができているか」の項目で1名（家族）が2年連続「いいえ」の回答。来年度はアンケートの書式を見直し、理由を書ける欄を設け改善に役立てる。
地域	①	地域・保・小・中との交流	・保育園児と直接会っての交流は感染症予防のため未実施。 ・町内の祭など行事には、交通規制で移動距離が長く長時間外出になる事で参加を断念される方が多かった。地域行事はあるも感染症への心配や施設内で感染症対策期間と重なるなど参加しにくい状況だった。施設周辺での行事10月三朝町駅伝の応援、大宮神社の奉納舞に参加された。
	②	地域貢献の実施	・花いっぱい運動に参加した。ペットボトルキャップ2.28kgを収集し地域貢献委員会へ提出した。ベルマーク収集を行い保育園へお届けした。
業務	①	安定的経営	・満床維持（毎月初日在籍）5月・6月・9月・10月未達成（各月1日付け14床）。待機者確保：５名 ・主に各ご利用者担当のケアマネジャーへの情報提供や近況報告を行った。ケアハウス新聞「やまぶき」、「感染症対策期間の動きについてご利用者別詳細」を入居者の担当ケアマネジャーへ配付した。
	②	ホームページの活用	・福生会ニュース22件掲載。アンケート結果でホームページを見たことが無いご家族が多い。今後も、ご家族への手紙に記事掲載のお知らせを載せていく。感染症対策の期間は記事を掲載する事が難しい。
	③	業務改善	・担当業務を各自が把握できていない事もあり、都度確認しながら業務を行った。業務の効率化、取り組みやすさを考え工夫（早番、遅番手引書作成、個別評価書式改訂、誕生日プレゼントの内容変更、ウエストポーチ導入、感染症対策手順表作成など）を行った。 ・主に、感染症対策において連携を図る事が多かった。情報共有や連携が行き届かない事もあった。

注：「アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）」 ＝ もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって自分自身で考えたり、信頼できる人たちや医療・介護関係者と話し合ったりすること。

令和５年度　事業所別事業報告
事業所　【　グループホーム　仁の里　】

Ⅰ　令和５年度の状況
　新型コロナウイルス感染症が５類対応となり、少しずつ地域との交流、面会などの幅が広がってきたが様々な制限は継続している。
　入居者の重度化が進み、車いす使用者の人数の増加に伴う介助の負担、入浴方法、移動等で不便を与えてしまう現状にある。今後福祉用具、入浴機器等ハード面での改善も考慮する必要がある。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	・　毎月の調理活動は実施できた。 ・　できる方に毎日軽作業をお願いした。 （洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換等）
	②	心身機能を維持し、活力のある生活を送る	・　集団リハビリ、個別リハビリを毎日実施 （1名加算対象外）
	③	認知症状に対する適切な対応・安全管理の徹底	・　毎月ミーティング時にケア会議実施 ・　同様の転倒事故が続いた時があった。また介護者の不備による事故もあったため、介護士間で同様の事故が起きないよう対策を周知した。
能力開発	①	学ぶ意識・資質の向上を目指す	・　日々の業務の中でケア方法について検討を行った。 ・　勉強会を年２回実施（認知症ケア、貧血予防）
	②	認知症に関わる資格取得	・　令和５年度外部研修参加なし。施設内研修での内容は伝達研修を行った。
地域	①	運営推進会議の開催	・　２か月に１回の会議を予定通り開催した。 令和５年度は外部評価、運営指導（三朝町）もあった為、報告も併せて行った。
	②	防災訓練の実施	・　年間２回実施（日中・夜間想定避難訓練） （倉吉消防署立ち合い、山田地区消防団との合同訓練実施）
	③	地域に貢献する	・　認知症カフェ（わらわぁ会）を３回開催した。 新型コロナウイルスの影響もあるが、長期間休止にしていたこともあり再度の参加がしづらくなり欠席される方が多かった。
	④	地域を理解し信頼関係を築く	・　年２回の奉仕作業に参加した。
業務	①	働きがいのある環境を整える	・　全職員が年５日以上の年次有給休暇を取得できた。 ・　残業時の事前申告を徹底した。
	②	安定的な経営を目指す	・　入院年間延べ日数２８日 ・　退居後空床延べ日数６９日
	③	接遇力の向上	・　委員会以外での個別の評価はできなかった。

令和５年度　事業所別事業報告【　認知症対応型通所介護事業所　】

＊仁の里認知症通所介護事業所は、令和５年４月１日から事業を「休止」しており、令和６年１月３１日に事業を「廃止」した。（令和５年度事業活動なし）
・第109回理事会（令和5年11月12日開催）にて事業廃止の議案が承認された。
・三朝町に廃止届出書を提出し承認された。（令和5年12月14日付通知）

令和５年度　事業所別事業報告

事業所　【　三喜苑西郷　】

Ⅰ　令和５年度の状況

今年度の延べ利用者数は3,120人と令和4年度と比較し207人の減となった。前年度同様新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、利用者や家族の新型コロナウイルス感染症罹患が大きな要因となった。また新規の利用者の獲得ができても、他施設への入所や長期入院、死亡等の理由で利用の継続に至らなかったケースも少なくない。平均要介護度や要介護実績者数、月平均稼働率等は前年度とほぼ変わらず、前年度からの収入増には繋がらなかった。今後も各関係機関との信頼関係を深めるとともに、職員の質やサービスの質を向上させ、選ばれる事業所を目指していく。

Ⅱ　評価

項目		重点目標	評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	・　機能訓練計画書延べ 132名作成。訓練実施者数延べ2，548名。評価者数延べ346名。 ・　午前にラジオ体操やテレビ体操、午後に生活リハビリ体操等を実施した。 ・　移乗介助等が必要な方に対してスライディングボードを活用。 職員の腰痛での休みはなく、介助中の事故もなかった。
	②	能力や好みに応じた活動の提供	・　興味関心チェックリスト作成し、個人の好みに合わせた個別活動の充実を図った。（読書、塗り絵、パズル、作品作り、囲碁、散歩等） ・　コロナ感染症対策のためボランティアの来苑行事が実施できなかったが、職員でできる催しや外出行事等工夫しながら行事の充実を図った。 また利用者のリクエストに応えた手作り昼食を実施し、食の満足度向上を目指した。
	③	各事業所との連携強化	・　サービス担当者会議延べ33件参加。照会・情報提供22件。昨年度同様新型コロナウイルス感染症予防のため、開催が中止か少人数での実施となり会議件数は少なかったが、照会や情報提供を行い連携強化に努めた。 ・　毎月翌月の1日から2日までには実績報告を行った。各事業所へのモニタリング評価も毎月遅れなく提出する事ができた。 ・　利用者の様子や空き情報を掲載した広報誌を年4回発行し事業所に配布した。また、変わりがあれば迅速にケアマネ等関係機関に報告し、信頼関係の構築にも努めた。
能力開発	①	資質向上と人材育成	・　「接遇」「チームケア」「セルフケア」「メンタルヘルス」「変形性関節症と片麻痺」「レクリエーション（2回）」について、年7回通所ミーティング内で勉強会を実施。その後のケアに活かせる具体例も挙げ取り組んだ。 ・　全体会は何度か家庭の事情等での欠席があったが、後日動画視聴等行い参加率は100%。施設内研修の参加率は70%。 外部研修はレクリエーション研修に2名が参加した。 ・　年2回個人面談を実施。主任面談のみでリーダーによる面談は実施できなかったが、必要時は個別に話しを聴き指導を行った。
	②	サービス向上、利用満足度を上げる	・　利用者、家族向けアンケートを11月に実施。12月に集計し1月に結果を報告。良い以上99%。リハビリについては別途アンケートを実施し良い以上99%。 ・　サービス向上委員を中心に毎月接遇評価を実施。今年度は「相手を笑顔にする挨拶プラス一言を伝える」を目標に取り組んだ。年度初めに比べ年度後半には、自然にプラス一言を伝える笑顔での挨拶も定着してきた。 ・　利用者の変化（体調など）の早期発見に努め、迅速な報告を行った。 事故発生件数は2件（転倒、服薬忘れ）だった。
地域	①	地域貢献と地域への発信	・　4月と10月の奉仕作業にそれぞれ2名ずつ参加した。 ・　福生会ニュースを毎月1～2件、計16件掲載した。 ・　高校生のボランティアについては、初日に職員の新型コロナウイルス感染が判明し初日半日で終了。その後のボランティアも中止。
業務	①	安定的な経営	・　利用者数実績：介護保険利用者目標13名/日に対し、11.50名/日。 （要介護7.98名/日　要支援・事業対象者3.52名/日） ・　収入平均1,885,186円/月、年間延べ利用者数3,120人、平均稼働率61.90%/月。年間稼働日数252日。 利用者や職員の新型コロナウイルス感染症罹患による影響で5日間の休業と3日間の縮小営業。大雪による影響で1日間の休業と1日間の縮小営業。 新規利用者8名、利用終了者9名（年間実人数）。 ・　科学的介護推進体制加算、ADL維持等加算（Ⅰ）、個別機能訓練加算（Ⅰ）イ個別機能訓練加算（Ⅱ）、サービス提供体制強化加算（Ⅰ） 入浴介助加算（Ⅰ）、介護職員処遇改善加算（Ⅰ）、特定処遇改善加算（Ⅰ） 口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ）を取得。
	②	業務改善	・　各利用者のアセスメントや個人情報を入力。各報告書や計画書等の進捗情報や稼働率の統計等のデータを活用し、業務削減にも繋げた。 ・　業務マニュアルの検討、作成を行った。来年度も継続し都度修正していく。 ・　年度初めに担当に業務を分担した。毎月業務が遂行できているか確認し、担当によって遅れが出る場合は、協力して遂行した。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・　職員全員が年5日以上の年次有給休暇を取得できた。 ・　欠員が出た場合や、新型コロナウイルス感染症対応の業務等での残業は多少あったが、1日1時間を超すことはなく上限規制を遵守できた。 ・　労働災害の発生はなかった。

令和５年度　事業所別事業報告
事業所　【　居宅介護支援事業所　】

Ⅰ　令和５年度の状況

今般の新型コロナウイルス発生を受けて介護サービス事業所においては今年度末までに感染対策や業務継続計画（ＢＣＰ）の策定が義務付けられており、居宅介護支援事業所・介護支援専門員は感染症流行時や災害発生時においても要介護者・家族等の生活を支えるために、必要な介護サービスを継続的に提供する対応力、調整力が必要となった。併せて人数の少ない居宅介護支援事業所でそのような状況下においても業務を継続するための備えも行った。また、居宅介護支援事業所の介護支援専門員には、利用者の在宅生活を支えるため、「自立支援」「重度化予防」「疾患別ケアマネジメント」「生活支援」「医療連携」「多職種連携」「地域住民との連携」「その人らしさの支援」「認知症の人と家族支援」等求められることは多く、必要な知識や対応する力を身につけるため、学習の機会を持った。介護支援専門員が支援を行う分野は多岐にわたる一方で、居宅介護支援事業所、介護支援専門員の業務は増えつつある。法令遵守をしつつ、業務の整理や効率化を図るための取り組み、電磁的方法の活用を行う等働き方改革に継続して取り組んだ。また、業務の遂行だけに気を奪われるのではなく、相談援助を行う専門職として相談援助技術や接遇を学ぶ機会を持った。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	・課題分析の内容を充実させ、整合性のある内容、且つ利用者・家族にわかりやすい内容で作成することに努めた。 ・事業所内で定期的に互いのケアマネジメントとケアプランを確認し、自立支援に資するケアプランの作成と利用者支援に努めた。 ・非常時に継続的にサービス提供できるよう記録の整備を中心に努めた。
	②	医療との連携を強化し、日々の健康管理と入退院支援の充実を図る	・利用者の医療の状況を把握し、必要な支援を講ずることができた。 （受診状況、病状、処方薬の確認、服薬状況等） ・入院中の利用者の状況確認を適宜行い、退院支援は医療機関と連携を十分に図った。プラン変更が必要な利用者は見直しを行い、退院後に自宅での生活がスムーズに再開するように努め、変更後の評価も行った。
能力開発	①	個々の希望や能力に合わせた目標を持ち、達成を目指す	・介護支援専門員個々の目標を設定し、目標に合わせた学びの計画を立て個々の現状に合わせた研修に参加したり、事業所内勉強会等行った。 ・新型コロナウイルスの影響でオンライン研修が多かったが、外部研修・勉強会に参加し、パソコン越しではあるが、他事業所の介護支援専門員と顔の見える関係づくりと情報交換を行った。
地域	①	利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域ができる支援を知り、つながりを作る	・生活を支援する地域のサービスを知り、利用者個々の状態に合わせて、必要と思われるサービスや制度が活用できるように調整し見守り体制強化を図った。 （地域の民生児童委員との関わり、愛の輪協力員、緊急キット再確認等） ・個別避難計画についても学び作成に向けての準備をした。
業務	①	利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護を７０件／月（１人３５件）維持。（※担当件数は上限３５件。基本要支援・事業対象者の受託は現在担当件数１０件から増やさない。）	・適切なケアマネジメント実施のための管理・調整を毎月請求時行った。 ・法的根拠に基づいた仕事ができるよう法令の理解を深めるため、事業所内で「介護報酬の解釈」をもとに勉強をして、適切な業務に努めた。 ・要介護利用者：月平均５７．５件、要支援・事業対象者利用者：月平均１４．１件　　１人あたりの担当件数：３５．８件
	②	働きやすい職場環境をつくる	・定時（所定労働時間）で退社できる取り組みに年間を通し取り組んだ。毎出勤日の定時退社はできなかったが、それぞれが定時に退社できる日はあった。 ・必要な業務を１ヶ月でどのように計画して取り組むか考えて実践することを意識し、概ね実践できた。

令和５年度　事業所別事業報告

事業所　【　賀茂保育園　】

Ⅰ　令和５年度の状況

令和５年度も、第５類に移行したとはいえ、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症などの対応に追われた１年であった。その都度、計画した行事等の変更を余儀なくされることがあったが、最新の情報と専門機関との連携をもとに、できる状況づくりを工夫し停滞しない活動をすることに努めた。

少子化も進み、園児の確保が重要な課題であるが、そのためには質の高い保育の提供はもとより、賀茂保育園としての特色を強く打ち出していく必要がある。本園の伝統、論語の素読やお茶会・坐禅を通しての心の教育、発達年齢に応じた運動遊びを通しての体づくりや地域との積極的な活動、とっとり自然保育認証園として生きる力を養う保育の継続は必須である。加えて、これらの取組をホームページ等により積極的に発信していくことに努めた。これにより、保護者の満足度も高い。さらに他の市町からでも「賀茂保育園に通わせたい」と保護者から本園を選ばれた事例にもつながった。

Ⅱ　評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	質の高い保育の提供	・個の見取りと適切な保育に努め、年齢到達目標を見据えた保育を実践 ・小学校に向けての架け橋プログラム（接続カリキュラム）の確実な実施 ・アンケートによる保護者満足度は100％を達成
	②	経営方針の明確化と特色づくり	豊富な自然体験活動をベースとして実践 （知）よく考え、創造性、探求心を持った子 ・自然散策、体験活動、英語活動、創作活動 （徳）豊かな心と表現力をもった子 ・論語、坐禅、お茶会、科学で遊ぼう （体）健康でたくましい子 ・運動の時間の設定、食育活動、歯みがき
	③	ネットの活用と積極的な情報発信	・園だより、クラスだより、論語だより、食育だより、人権だより、絵本通信等の積極的な発行 ・HP（令和5年度edumap学校ウェブサイト大賞特別賞を受賞）やマチコミ（情報発信ツール）を活用した情報発信
能力開発	①	職員の資質向上	・自己評価に基づく課題の設定と改善 ・研究テーマの設定とグループでの取り組みと実践 ・保育士免許1名取得。みなし保育士資格取得２名 ・他園との年齢別検討会の実施
	②	研修への参加	・キャリアアップ研修等の専門分野の受講による資質の向上 ・県、町主催の研修会参加による資質の向上
	③	外部への公開	・県教委、町教委、他園保育士による指導助言 ・公開保育を年3回実施
地域	①	他園・小・中学校との交流	・町内の園児との交流会　年４回実施 ・三朝小学校１年生、５年生との交流それぞれ年２回実施 ・三朝中学校トライワーク、保育体験の受け入れの実施 ・国際交流　台湾石岡区土牛国民小学校付属保育園との交流を計画
	②	福祉施設・地域との交流	・老人福祉施設訪問（三喜苑など）はコロナ対応の為中止 ・賀茂地域協議会との交流の実施。
	③	地域社会への貢献	・小、中学校の夏休みボランティア活動を受け入れた ・地域でのイベントへの園児の出演、作品展示などの協力 ・年５回オープンデー（未就園児対象）の実施
業務	①	職員間の協力体制	・園行事等の協力体制の確立 ・クラス、未満児、以上児担当など、小規模のミーティングの実施 ・職員連絡会、運営ミーティングの実施
	②	保護者との信頼関係づくり	・送迎時を利用した園児の保護者との情報共有 ・保護者向け園行事、保育参観の実施 ・クラス懇談会、個人懇談の実施 ・気にかかる園児の積極的な保護者との懇談の実施
	③	安定的な経営	〈園児確保に向けた努力〉各種たよりの発行やHPの充実による園活動の広報強化の推進。オープンデー、ハロウィンパレードの開催、キュリー祭やハッピーふれあいコンサートへの出演等、積極的参加で三朝町や地域との繋がりを図りながら園児確保に向けた努力を継続。 〈消耗品、水道光熱費等の削減と効率化〉令和4年度の1,200万円の赤字脱却に向け、無駄を省くことを職員に徹底。劣化して常時水漏れをする水道栓の修理や、こまめな消灯、消耗品をまとめて購入するなど消耗品、水道光熱費等の削減と効率化を推進。